

## 笑顔のもと

鹿児島市立鹿児島玉龍中学校3年 日高 真緒

私は、コロナウイルスが流行するまで毎年、妹の運動会の応援に行っていました。

私の妹は知的障害があるので養護学校に通っているのですが、そこに広がる光景は驚くものばかりだったのです。

まず、手や足が不自由な方が通えるように全てがバリアフリーでつくられていました。階段があるところには、合わせて手すりとスロープもあります。次に体育館に行ってみると、そこにも驚くような設備がありました。母から聞いたのですが、冬でも床が冷たくなならないように床暖房がつけられ、より快適に運動を楽しめるそうです。最後にグラウンドに行ってみました。私の通っている中学校とは違い、芝生とトラックで出来ていました。足の不自由な方でも活動しやすいように工夫したのだと思います。こうした隅々まで行き届いた配慮と工夫により、体の不自由な方も学校生活を送ることができていることが分かりました。

しばらくして、「こんなに設備が立派な学校って、いったいいくら位かかっているんだろう」と思い、母に尋ねてみました。

「きっと多くの税金が使われたんだろうね。」と母が答えました。

そこで初めて聞いた税金という言葉。今まで税金と聞くと大人のやりとりだと思い、子供の私には少し遠い存在のように感じていました。しかし、私や家族、友達を含め、全ての人々が納めてきた税金が、こんなに立派な養護学校に変身したことにとっても感激しました。

私は、妹の弾けるような笑顔が大好きです。チャームポイントだと思っています。今日も我が家では、妹の笑い声が部屋中に響いています。

妹は知的障害を患っているので、できることが限られていきます。けれど私たち家族は、できること、できるようになったことに注目し、その喜びを分かち合っています。

妹が安心・安全に過ごしていただけるのも、多くの方々に支えられてのこと、いうならば税金のおかげです。

税金はあらゆる面で使われ、たくさんの困っている人を助けてくれています。私も生まれてから今まで数えきれないくらい、税金に助けられ、育てられてきたんだと思います。今は国を支える納税ができていない私ですが、税金のありがたみを感じながら、立派な社会人になりたいです。そして、私の成長や妹を支えて頂いた感謝の気持ちを持って、これからも続く明るい社会に貢献したいと思います。